『美術資料』をつかったワークシート

教師用資料 ①

「ワークシート 浮世絵 を見る・知る・考える 画面の構成」

つかいかた・学習のポイント

ワークシート

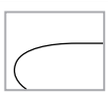
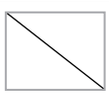
浮世絵を見る・知る・考える 画面の構成

『美術資料』P.16 構図と遠近法 ＋ デジタルコンテンツ ▲浮世絵作品リスト

年	組	番
氏名		

■ 浮世絵作品リストの作品はどれも大胆で斬新な画面構成です。どのような工夫をしているか考えてみましょう。

1．次の①～③の画面構成（構図や遠近法）を用いているものはどれか，探してみましょう。
それぞれ１つとは限りません。あなたのお気に入りの各１つを選び，「選んだ作品」の所に画像を貼り付けるか，作品の画面構成を絵でメモしてみましょう。作品名，作者名も書いておきましょう。

	① 弧線構図	② 対角線構図	③ 一点透視図法
画面構成			
選んだ作品			

2．上で選んだ３つの作品は，それぞれ画面構成の工夫からどのような表現の効果が感じられますか。
また，作者はどのような事を表現しようと思って作品を制作したのか，考えてみてください。

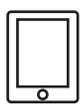
	① 弧線構図	② 対角線構図	③ 一点透視図法
感じられる表現の効果			
作者が表現したかった事			

●本学習で鑑賞する浮世絵

「風景」の浮世絵

（選択できる数は多くて良い）

★ワークシートに記載のQRコードより，「美術資料デジタルコンテンツ」に掲載の「浮世絵作品リスト」に直接アクセスすることができます。



生徒がタブレット等で高画質で鑑賞できます

★この「教師用資料」の次ページには，「浮世絵作品リスト」と同じ作品をA4 1枚にまとめたシートを掲載しています。

すぐに印刷して使えカードとして鑑賞できます

※ここで紹介している浮世絵はほんの一部ですので，先生のほうで，生徒の興味関心にあわせて，他の浮世絵をあらかじめご用意頂いてもよいでしょう。ただし，構成の工夫が見つけやすいものを選びましょう。

学習のポイント

３つの構成の工夫に当てはまる浮世絵については，生徒の自由選択ですが，しっかりと浮世絵に描かれたものを見て，その形や色などを根拠として，選んでいることが大切です。

●鑑賞の深め方

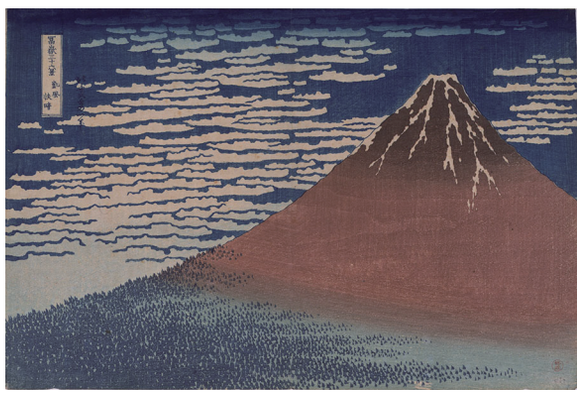
・それぞれの浮世絵の造形的な表現の工夫には，どのような効果があるか考えさせる。
・感じられる表現効果をふまえて，全体のイメージを捉え，作者の表現意図の推測へつなげる。

※構図・遠近法などの言葉の意味を理解することだけではなく，形や色（造形的な要素）の工夫によって，見る人に与えるイメージが変わることを実感的に理解する事が大切です。

【浮世絵作品リスト 作品情報】 全て、葛飾北斎の「冨嶽三十六景」より
① 駿州江尻 ② 東都浅草本願寺 ③ 凱風快晴 ④ 隅田川関屋の里 ⑤ 江戸日本橋
⑥ 遠江山中 ⑦ 登戸浦 ⑧ 五百らかん寺さざゐどう ⑨ 深川万年橋下 ⑩ 常州牛堀

①

②



③

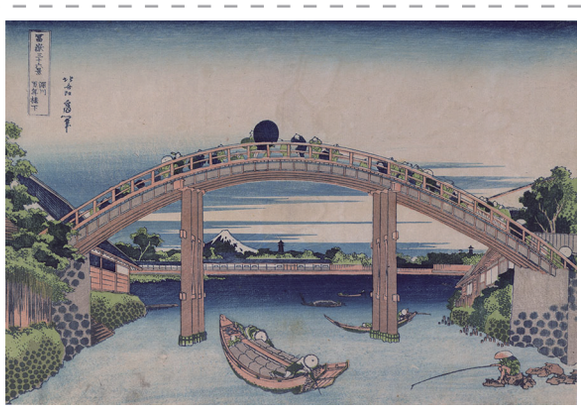
④

⑤

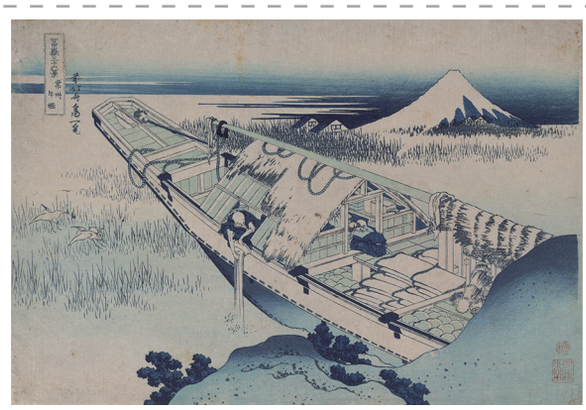
⑥

⑦

⑧



⑨



⑩